

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○明野 伸次 横川 亜希子 新見 千穂 米川 弘樹 白川 そよか 平 典子

【概 要】

入院患者を受け持ち、対象者に対する看護を体験しながら看護実践のあり方を学ぶ。

【学習目標】

1. 看護実践を体験し、援助のあり方を考察する。
2. 医療システムにおける看護職の役割を知る。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
第1段階	1. 看護実践のあり方を考える 2. 医療システムにおける看護職の役割を考える	1) 医療施設における療養環境の特徴を知る 2) 患者の「援助へのニーズ」を明確化する必要性を理解する 3) 原理・原則に沿って既習の看護技術を実践する 1) 保健医療チームを構成する職種とその機能を知る 2) 保健医療チームにおける看護学生の役割と責任を果たす 3) 医療情報の種類と内容を知る	明野 横川 新見 米川 白川 平
第2段階	1. 看護実践のあり方を考える 2. 医療システムにおける看護職の役割を考える	1) 受け持ち患者の「援助へのニーズ」を明確にする (1) 観察力を活用する (2) 患者が示す手がかりを理解する (3) 不快の原因を突き止める (4) 患者が自分でニーズを満たせるかどうかを見極める 2) 受け持ち患者が必要とする援助を基本的な看護技術を用いて実施する (1) 看護行為がどのような目的に基づいているか説明する (2) 自分の身体を看護行為の中で活用する (3) 看護行為の実施にあたって順序性を考える 3) 実施された援助が必要とされていた援助であったかどうか確認する 1) 受け持ち患者と保健医療チームの関わりを考える 2) 保健医療チームにおける看護職の役割を考える	明野 横川 新見 米川 白川 平

【評価方法】

1. 評価対象：第1・2 段階ともに、評価表、実習レポートとする。これらを総合して基礎看護学実習の単位を認定する。
2. 各段階における評価対象の配点、および総合評価の内容
 - 1) 第1段階素点 (提出課題100点)
 - 2) 第2段階素点 (評価表 70点, 実習レポート 30点)
 - 3) 総合評価点 = (第1段階素点×0.4) + (第2段階素点×0.6) *小数点以下、四捨五入

【学習の準備】

1. 看護実践に必要な知識について、既習の内容を復習して実習に臨む。
2. 看護技術基礎演習、看護技術演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護技術について、自己学習して実習に臨む。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2, 1, 4, 3

【実習方法】

1. 実習施設 北海道大学病院

2. 実習方法

1) 実施期間：第1段階1週間、第2段階2週間の計3週間

第1段階：2020年12月～2021年1月

第2段階：1クール目 2021年1月25日（月）～ 2月5日（金）

2クール目 2021年2月8日（月）～ 2月19日（金）

2) 実習グループ：15グループ編成で行う。

＊第1・2 段階ともに同じグループ、同じ病棟で実習する。

【実務経験】

明野伸次（看護師） 横川亜希子（看護師） 新見千穂（看護師） 米川弘樹（看護師） 白川そよか（看護師） 平典子（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での看護師としての実務経験を活かし実践的教育を行う。